

## 第3回議事

平成22年12月17日 18:00～20:00

町田市役所森野分庁舎2階第3会議室

### 配布資料

- 資料1 新しい施設群の考え方と役割の整理
- 資料2 検討手順イメージ
- 資料3 各施設の課題

### 1 前回議事内容の確認

前回の内容の確認。配布された議事録について修正事項がある場合は12月21日までに事務局まで連絡。

### 2 議事

各委員の方々より、新しい博物館の具体的なイメージを先に整理したほうがいいというご意見が多かったため、事務局より資料「新しい施設群の考え方と役割の整理」を提示。町田市の文化施設を美術、歴史、自然の3つの分野に整理した。

**鈴木良明委員長：** 資料では、町田市内にある9施設を3つの分野に分類した場合、こういう形になることを挙げてもらいました。ここでどういう博物館の在り方がふさわしいかということをご意見いただければと思います。

**小瀬康行委員：** 3つの施設群という考え方は、まとめ方としては非常にわかりやすいですね。

**濱田隆委員：** 表現上の問題ですが、自然系、美術系、歴史民俗系というふうに整理したらどうでしょうか。郷土史も、歴史民俗系の施設としたほうがよろしいのではないかと思います。

もう1つは、どこが責任を持ってまとめ役になれるかという、位置付けを考えたほうがいいと思います。各施設をまとめる情報センター的なものを作っていく時に、どこが主体的に動けるのかということです。

**前島正光委員：** 既存の施設だけで本当にいいのか、という見方が必要だと思います。統合されることもあれば、分散することも出てくるでしょうしね。また、個々の施設や、いま分類した施設群全体として、それぞれの特色をどう出していくかとい

うことも重要です。それらを総括した町田市の文化施設としての在り方もにらみながら、全体を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

**山口有次委員：**　そういう意味では、それぞれ施設群ごとにあまり分散せず、明確にコアがあったほうがいいと思います。たとえば美術系では、版画美術館がコアになってくるのではなかろうかと。

**濱田隆委員：**　自然系については、ある程度しっかりした拠点をどこに作るかということを考えるべきです。歴史系については、町田市として自由民権資料館をどのように育てていきたいのかが、一番大きな問題としてあると思いますね。市史編纂室なんかの事業をある程度引き継いでいるわけですから、自由民権資料館が市史についてのセンター的な役割を果たすべきではないかという気がします。美術系については、市立博物館が所蔵する美術資料を、版画美術館といかに合体、あるいは並立させるかが課題だと思います。

**前島正光委員：**　3つのグループごとに、地理的にもある程度集約したほうがいいと思います。できるだけ来館者数を増やし、その場の雰囲気をつくりあげるためには、同じ性質をもった施設の集合体が必要でしょう。たとえば自然系の施設の場合、薬師池公園のように、実際に自然にある公園のよさを採り入れながら取り組むということも、都市づくりからすればいいことではないのでしょうか。

また、文化施設の香りを出せるサテライトができるといいですね。特にPRに関する情報センター的なものは、駅周辺とか、新しくできる庁舎の1階辺りなど、人が集まる場所に設けるほうが効果的でしょう。

**鈴木良明委員長：**　情報センター的なもの、というのはおもしろいですね。

**山口有次委員：**　サテライトの場所は、市庁舎や、市役所を移転した跡の土地利用、町田の駅前の再開発の一環など、あらゆるところで可能性を探っていき、できるだけ人が集まる場所に出て行くほうが望ましいと思います。重要なのは、駅の近くにサテライトが必要だという考え方です。

**鈴木良明委員長：**　町田市の文化施設を美術系、歴史系、自然系というように分けるとすると、問題になるのが市立博物館の美術品、あるいは民俗資料や歴史資料などが渾然としている状況をどういうふうにさばくのかという点だと思います。その辺はいかかでしょうか。

**濱田隆委員：**　私は、歴史系と自然系の2つについては、ローカルな地域性の高いものだと思うんですよ。一方、美術は全国的な視野とか、世界史的な視野でいろいろ集めて展示していきます。美術系で郷土の美術だけを展示しても、町田の場合に

は形を成さないだろうと思います。また、町田で郷土史博物館を開設しても、リピーターを獲得することは難しいのではないのでしょうか。

**渡辺一雄委員：** リピーターとはどういう層を指しているかによって変わってきますね。学校現場からすると、郷土史の利用者は次から次へと世代を移っていきます。流れとしては、絶えずそういう施設を訪れ郷土史を学習するというニーズはあるわけです。リピーターの意味合いを精査したほうがいいと思います。

**濱田隆委員：** 歴史民俗展示というのは固定展示になりやすく、魅力的な展示をすることは非常に難しいということを申し上げました。

**前島正光委員：** 歴史のとらえ方だと思うのですよね。現代のことであっても、将来から見ると歴史的な資料になっていきます。今起こっていることも含めて保存していくという視点で考えていくと、範囲も広がってくるかなと思うのですけどね。魅力づくりをどうするかが問題です。

**篠原やよい委員：** 美術系については、版画美術館のコンセプトが非常に明確であるために、市立博物館のもっているさまざまな資料と単純に結び付けることは難しいだろうなと感じます。それから歴史民俗系ですけれども、町田市の市民大学HATSなどで市史を勉強したいという方は、たくさんいます。通史展示は学校教育の面から大変素晴らしいと思いますが、市民の学習活動の場を同時に提供していくような活動がどこかで担えるといいと思います。市史の編纂をする自由民権資料館の活動とは、分けて考えたほうがいいのではないのでしょうか。

**小瀬康行委員：** この博物館をどういう場にするのか。つまり生涯学習の傾向を強くするのか、地域研究の場としての地域に根ざした博物館とするのか、そこがかなり大きなところだと思うんです。どういう性格付けをするのかということも、多分これからの問題として出てくるんじゃないかな。また、市立博物館であっても、あまり町田市にがんじがらめにしないで、臨機応変に広い地域のことも扱えるという、ゆるやかな地域博物館であったほうがいいと思います。

**濱田隆委員：** 町田というのは古代から近代に至るまで、交通の要衝でした。昔の東海道、相模の国分寺や府中を通る古代の道、鎌倉街道、絹の道などいろいろな道があった。そういうものを含めて、多角的に郷土史を見ていくと、もっと歴史民俗が魅力のあるものになっていくだろうという感じがしました。また、特に町田の場合には縄文土器や文献資料、古文書類など優れたものを持っていますが、そうした情報をきちんとキャッチして集約し、処理するセンター的な機能をどこに持たせるかが大きいと思います。

**事務局（水嶋）：** 町田市史は自由民権資料館で扱っていますが、実際に古代、中世までの部分についての担当学芸員はおりません。別にプロジェクトチームを設けて町田市史の編纂を行っていく必要があると思います。自由民権資料館は、常設展のほか年に2回の企画展を行っています。1回は必ず自由民権に絡んだもの。もう1回は、発掘された地域資料から地域の歴史、風土の企画展もできるだけ採り入れるようにしています。

**鈴木良明委員長：** 自由民権資料館は、非常に個性のある大変いい資料館だと思います。それに市史をプラスするのかどうかというのは別途の問題でありますけれども、看板を掛け替えずに残していくべきではないかなという気がします。

古文書を、どこがどう収集し、保存していくかということも大事なことだと思います。さらに、町田市が作成する公文書も含めて、ほっておけば廃棄されるさまざまな資料を歴史資料として保存する公文書館的な役割は必ず求められると思います。古文書、公文書を収める受け皿をどこかで考えておく必要があります。

**濱田隆委員：** 美術系については、版画美術館と市立博物館を結び付ける必要はなく、相乗効果を出すようにすればいいわけです。並立のアプローチをしたらいいのではないのでしょうか。

**山口有次委員：** たとえば、版画美術館に隣接する公園内に、市立博物館の現有の美術機能を切り離して近づけておく。一体化する必要はないですけど、近づけたほうが利用者にわかりやすいと思います。

**事務局（奥山）：** 郷土史系では豊富にある縄文資料を含めた考古資料をどのように活用すればいいのかが課題となっています。

**渡辺一雄委員：** 考古というのは、従来は保存が重視されてきましたが、最近は実物資料の公開など活用サイドに光が当てられています。特に町田市で発掘された埋蔵文化財の展示というのは、全国を越えた水準だったのです。ところが、この前博物館の中を見せていただいたら、貴重な資料が埃をかぶっていた。専門的な実際に動く学芸員がいるのかということも問題です。資料を活用するエキスパートが市レベルで不足しているとすると、ここに手を付けるのが先決じゃないですか。かつて全国に名を馳せた町田の、考古という強みを再び出していくために、市が責任を持って人を手当すべきです。全国公募でもなんでもやって、エキスパートをそろえるという覚悟がなかったら、いくら議論をしてもステップアップにはなりません。

**事務局（矢島）：** 町田市では、縄文の早期から晩期まで一渡り全部見られる資料が発掘されており、こうした場所は日本では滅多にないそうです。考古研究においては特殊で非常に重要なまちであるそうです。

**事務局（水嶋）：** 発掘された埋蔵文化財は、活用まで手が回っていないというのが現状です。分散して収蔵しているものを展示する場所がありません。どこかで公開してくれという声をたくさんいただいています。全部を展示するとなれば、学校1校分ぐらいのスペースは必要になってしまいます。

**渡辺一雄委員：** そうした文化財は、教育上の教材として使える余地はあるわけですから、きちっとした計画をもってやる人材がいるかどうかということが問題ですね。

**濱田隆委員：** 市立博物館の美術部門も、もし国際版画美術館とドッキングして、2つの組織がそこにひと固まりできるとすれば、市立博物館は一応空くわけですね。そこは、今後活用の余地はないのでしょうか。例えば考古展示などに活用するというような考え方というのはあるのではないかと。

**前島正光委員：** いくつかの問題をしっかりと検討しないといけません。市立博物館の建物はだいぶ老朽化していますし、裏に崖を背負っています。借地であるということ、アクセスしにくい立地の問題もあります、本格的にそれを活用しようとしたら、こうした問題をクリアしていかないと。

**渡辺一雄委員：** 国際版画美術館は、もう少し美術系として大きな役割分担を背負ってもいいですね。また、組織統合の可能性まで踏み込んで議論し、この委員会として直言したほうがいいかと思います。自由民権資料館ですが、テーマ館として独立しているものを、あえてどこかに付けるとするのは、観光的問題も含めて、選択肢としてどうかなという気がします。問題はそれが本当にテーマ館にふさわしい内実を持った、実績を残しているのかどうかという。おまけに市という単位の中で、財政的制約は当然あるわけだから、それが時としてその名前が重荷になってはしないかという点。それが端的に表れているのが人材不足だということなので、そうはつきり市長に申し上げたほうが私はいいというふうに思います。

**鈴木良明委員長：** 市が有する歴史民俗系の資料全体を整理して、歴史系の博物館を造る、新設するというようなイメージになってくるんでしょうかね。そのニーズの問題から見て、そういうものがほしいという方が市民の方にもたくさんいらっしゃる。あるいは学校の教育の中でも望ましいといえますか、そういうニーズがあるようですね。

**事務局：** 自然史系ですけれども、現在はほとんど機能しておらず、現状では博物館機能の役割は果たせておりません。この辺についてはご意見をいただけますでしょうか。

**濱田隆委員：** どこに置くかという候補としては、忠生公園と薬師池がありますね。忠生公園では田植えなどワークショップ的なことを盛んにやっていますが、いろいろなものが集約されているという点で薬師池のほうがいいな。薬師池にセンター的なものがあれば、ある程度フォローできるんじゃないかという感じがします。あとはフィールドですよ。かしの木山自然公園なんていうのは、ほんとに自然のままですから。

**篠原やよい委員：** 自然はまだまだいっぱいありますよね。小山田緑地など非常に大規模な緑地もあるし、いっぱいあります。

**渡辺一雄委員：** 小野路城跡からずっと、いわゆる里山、東京都の中では非常に稀有な存在であるというので、玉川学園の中学生を連れて、今年は小山田小学校とか、忠生小学校との子どもたちとの田植え経験を予定しています。教育基本法改正での環境教育重視という視点で、里山が今非常に注目をされています。地域との連携というテーマとしては、自然系においてそういうリーダー、専門家がおられると、例えば里山学習なんていうのは企画していただけるようになる。これは1つのデマンドがあるように思います。

**鈴木良明委員長：** 拠点が必要だということは、はっきり申し上げておいていいんじゃないでしょうか。具体的に中身をどうするかについては、専門の立場の方のご意見とか、自然に対する姿勢や教育といったものを含めて考え直さなきゃいけないかもしれません。

**事務局（奥山）：** 各分野の施設群の立地については、どのような場所がふさわしいのか、考え方を示していただけますでしょうか。

**山口有次委員：** 集客の面では、すべての施設のアクセスが悪いわけです。交通の便がよいところに移転するとか、集約するとか、そういう考え方が望ましいことは異論がないでしょう。町田駅近くにサテライトを置くというような考え方も含めて、拠点はできるだけいいところで露出していく。あとは市庁舎とか、跡地とか、国際版画美術館の横とか、できるだけいい場所の可能性を模索していくと。

**鈴木良明委員長：** 資料の安全性を考えると、河川敷やがけ地じゃだめでしょう。そういう要素は入れておいたほうがいいのではないのでしょうか。

**前島正光委員：** 来館者の安全性を考えていきますと、地盤や建物そのものの防災・耐震など、あらゆる面で検討していかなくやいけません。立地の話では、美術系につきましては、やはり芹ヶ谷公園のところが一番適しているのではないのでしょうか。周辺環境というのも非常に大事なことだと思います。

また、フォトサロンについてですが、今あまり活用されていないように私は思うんです。フォトサロンの役割はもっと別なところに持っていくことも可能なんじゃないか。たとえばさっきのサテライト的なところにフォトサロンを持ってきて、そこにインフォメーション的な役割、PRセンターとしての役割も持たせてみるとかですね。

郷土史、歴史系につきましては、これはもう完全に収納と保管と展示を分けて考えないと駄目だと思います。現在のように学校の空いているところを利用するにしても、温度、湿度などをきちんと管理するようなことも考えなくやいけません。それから立地については、歴史系は、あんまり遠いところには人が集まりにくいという気がしますね。核になる施設は、人が集まりやすい、交通の便のいい場所を十分吟味したほうがいいと思います。

自然系につきましては、忠生公園にある今の施設はそれなりに生かしていき、核はやっぱり薬師池じゃないかなと思います。

**山口有次委員：** 例えば商店街と連携させるとか、既存の生涯学習機能と連携させるとか、いろいろ連携を考えていくというのは、立地も、これだけのことを考えるのではなくて、ほかの部署とか、周辺の地域のことと連携を考えながら立地を探すというのは重要な考え方だと思います。

**小瀬康行委員：** 3つの施設群をどのようなネットワーク化するかというのも重要だと思うんです。まず隣同士の資料館の情報をどのように共有し、受発信するかという面があります。それからもう1つは、建物そのものの立地の問題です。どういうふう隣接するのか、それとも離しておいてもいいのか。

**渡辺一雄委員：** 立地の条件については、財政負担や市長さんの大きな裁量の問題があるので、とことん詰めるというのは一定の限界があるのではないですか。

**事務局（奥山）：** 実は場所の特定等まではこの委員会では考えてないので、集積効果、交通の便など、考え方や条件としての検討をお願いします。

**鈴木良明委員長：** 現在の市立博物館がやってきたことを継承して、再構築していく中で、博物館を新たに造るかどうかが課題です。考え方として、現状の組織と建物ではもう無理だよということは、申し上げておいたほうがいいと思います。自然系についてはセンター的な機能が必要じゃないかということですね。

**濱田隆委員：** 市立博物館には、美術資料として大変いいものが収蔵されているわけですね。市民参加による貴重なコレクションの成果です。それをはっきりしていただいたほうがいいと思います。

**事務局（奥山）：** 今回は、活用すべき文化資源として、収蔵品について一定の資料をお出ししていこうと考えています。また、この委員会のまとめにつながる目次案のようなものを、次回の委員会までに作ってご意見をいただくようにしようかなと思います。